



セネガルの子どもたちに教育を！

# バオバブの会 ニュースレター

2015年 No.1

(通巻38号)

1月18日発行



新春とはいえ厳しい寒さが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

本年第1号のニュースレターをお届けするにあたり、バオバブの会を様々な形で支援してくださっているすべての皆様に、新年のご挨拶を申し上げます。

皆様にとって、2015年が、平和と健康と繁栄と、仕事の中での、家庭の中での、また個人的なすべての試みの成功をもたらす年となりますように！

バオバブの会は、本年も多彩な活動を展開してまいりますので、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## ★★★ イベント案内 ★★★

### ★「よこはま国際フォーラム2015」 <http://yokohama-c-forum.org/>

主催：よこはま国際フォーラム2015プロジェクト

＜構成団体＞（特活）横浜 NGO 連絡会 JICA 横浜 公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）

日本赤十字社神奈川県支部（特活）教育支援協会

日時：2015年2月7日（土）8日（日） 11:00～19:00

会場：JICA 横浜

横浜市中区新港2-3-1

JR 桜木町駅から：汽公道、ワールドポーターズ、サークルウォークを通り、徒歩15分

JR 関内駅北口から：馬車道経由でワールドポーターズ方向に徒歩15分

みなとみらい線馬車道駅4番国橋出口からワールドポーターズ方向に徒歩8分

参加費：事前申込 1日券 500円 2日券 700円

当日申込 1日券 700円 （事前申込優先 当日申込は1日券のみで2日券なし）

事前申込方法については、HP <http://yokohama-c-forum.org/> をご覧ください。

国際協力・多文化共生に関わる50団体が、2日間にわたって、セミナー・報告会・ワークショップなど、多彩な内容の55の講座を開催します。

バオバブの会は、8日の14:00～14:50、4Fのセミナールーム4において、ディウフ会長と柳田副会長によるセミナー「イスラムと教育」を行います。現在、最も関心を集めているテーマです。どうぞご参加ください。

★「2015年度年次総会」

日時：2015年3月1日（日） 13:00～16:00

会場：保土ヶ谷アワーズ <http://hodogaya-ours.jp/about/>

相鉄線星川駅北口5分 保土ヶ谷公会堂・図書館並び

★ アフリカ音楽コンサート 「セネガル物語」

食べれる！ 踊れる！ アフリカ体験！！

<http://africulture.wix.com/africulture#!/c1h8f>

主催：Africulture

日時：2015年3月7日（土） 11:00～18:00

会場：神奈川公会堂

221-0821 神奈川県横浜市神奈川区富家町 1-3

JR 東神奈川駅／京急 仲木戸駅 徒歩4分 東急 東白楽駅 徒歩5分

コンサート料金：前売り800円 当日999円（1円寄付）

（大人1名につき未就学児1名無料）※全席自由

チケット購入についてはこちら→ <http://africulture.wix.com/africulture#!/c1h8f>

<問合せ先>

AFRICULTURE 080-4341-5007 [africulture87@gmail.com](mailto:africulture87@gmail.com)

<プログラム>

・アフリカンワークショップ

11:30～12:00 タイコ体験ワークショップ（参加費500円）

12:00～12:30 ダンス体験ワークショップ（参加費500円）（両方参加は700円）

・Talk about AFRICA 13:00～14:20

各参加団体紹介とセネガルのことを聞いてみよう

<参加団体>

バオバブの会 / WAAF (FGM 廃絶を支援する女たちの会) / Fan3jr /

Harmony for peace / Aminata

・アフリカ音楽コンサート 15:00～17:00

<出演者>

オマール・ゲンデファル / 奈良大介 / アニチェ / AFRICULTURE

バオバブの会は、パネルディスカッション参加、展示による活動報告、ケベサック（セネガルの女性グループ製作のアフリカン・プリント布バッグとポーチ）、アフリカ関連児童書他の販売を行います。

**★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★**  
**第18回 「ことわざクイズ このことわざのテーマは何でしょう? その2」**

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

前号のニューズレターではクイズを作りました。11個のことわざと3つのテーマを並べ、それぞれのことわざがどのテーマにあてはまるのかを考えていただく、というものでした。そして、3つのテーマは次の通りでした。

A: 人間または動物の体が、それぞれの部分が補い合うことで、完璧なものになっていること。

B: 連帯の力、また、連帯のすすめ。

C: 同情、分け合うこと、また、助け合いのすすめ。

いかがでしたか?

私の答えを、解説を加えながら紹介しましょう。

	ことわざ	使っている人々	A	B	C
1	1本の指だけで、皿の肉をつまむことはできない。	カメルーンのバムーンの人々	✓	✓	

今日、世界中で、食事の際にはフォークやナイフやスプーンといった道具が使われるようになりました。アフリカも例外ではなく、日本の食卓で、時には箸の傍らに、または箸の代わりにナイフやフォークが置かれるように、アフリカの家庭でもごく普通に使われています。しかし、アフリカの多くの社会には、“手で食べる” 伝統が残っています。

アフリカの伝統的な食事は、多くの場合、まず、料理が盛られた大きなお皿のまわりにみんなで座ります。お皿の真ん中には、主な具材、つまり、肉、魚、また野菜が置かれています。そして、通常、それらは大きなかたまり、つまり、鶏肉や魚や人参やじゃがいもはまるごととか、キャベツは半分に切っただけ、という感じです。ですから、それらを食べるときは、かたまりごと取って、自分が食べる分を小さく切りとり、残りをお皿に戻します。このとき使われるのは親指と人差し指ですが、時には中指も使われます。中指で支えた人差し指を台にして、親指をはさみやナイフのように使うわけです。ですから、他の指の協力がなく、1本の指だけで肉や魚や野菜を食べることはできません。

したがって、このことわざの中には、まず、連帯の必要性を見ることができます。また、手の形を見ると、それぞれの部分に振り分けられている仕事とうまくできるように、そして協力して働くことで完璧な仕事ができるように作られていることがわかります。

これを人間の社会に置きかえると、私たちは、一人では、すべての必要を満たすことはできない、ということになるのではないのでしょうか。人は、しばしば、他の人の力を必要とします。補完し合って生きていかなければなりません。しかし、そうしなければならないからやる、というのではなく、心から、力を合わせていこう! というのが望ましいですね。それを「連帯」と呼ぶのですから。

2	1本の指だけで、落花生の殻を割ることはできない。	カメルーンのバミレケの人々	✓	✓	
---	--------------------------	---------------	---	---	--

このことわざは1と同じです。

皆さんは、落花生の殻を片手で割ろうとしたことはないでしょうか？ もしなかったら、一度、やってみてください。このことわざは<1本の指だけで>と言っていますが、私が<片手で>と言ったのは、1本の指ではもちろんできないが、片手の5本の指を使ったとしても、誰でもが簡単にできることではないということを書いたかったからです。もっとも、それは落花生の種類にもよります。種類によって、殻の大きさや固さが異なりますので。私自身の経験から言うと、普通よりも小さい落花生の殻を割るのにも、3本の指が必要です。

セネガルは落花生の大産地ですが、とりわけ、私の生まれ育った地方は、<落花生盆地>と呼ばれていました。落花生を収穫すると、農民は、売る前に翌年のタネに使う分を取り分け、殻を割り、選別し、保存します。その時、殻を割るのは、多くの場合、子どもの仕事になります。地面に座って、両足を伸ばして開き、その間に膝の高さまで落花生の山を積み上げます。そして、手前に、敷石、コンクリートの板、硬い木片といった、平たくて硬いものを置きます。それから、片方の手で落花生をひとつつまんで、その硬いものの上で割ります。殻を開き、中の豆をつまみ、傍らに置く間に、もう一方の手は次の落花生をつまみ、同様の作業をします。こうして、両手で交互に殻を割っていくリズムは、しばしば、時計の針がチクタク進むのより速くなります。早くこの作業を終えて、遊びにいきたい、と思うからでしょう。

3	1本の指だけで、顔は洗えない。	ガボンのファンの人々		✓	
---	-----------------	------------	--	---	--

これには説明はいらないでしょう。しかも、顔中を洗うときは、全部の指だけではなく、手のひらまで使います。ところで、顔を洗うとき、日本人は両手を使いますが、大抵のセネガル人は片手でやっているように思います。ただ、イスラム教徒の場合、お祈りの前に顔を洗うときは、両手でていねいに洗います。

4	1本の指だけで、背中に薬を塗ることはできない。	ガボンのアンベデの人々	(✓)	✓	
---	-------------------------	-------------	-----	---	--

これも説明はいらないですね。この場合も、完璧にするためには、すべての指だけでなく、手のひらを使う必要があります。

5	片方の手で、もう一つの手を洗う。	ギニアのマンディングの人々	(✓)	✓	
---	------------------	---------------	-----	---	--

前の4つと同様に、このことわざも、連帯の必要性を示しています。ただ、ここでは、互いに助け合う、という両者の平等性が強調されています。

6	ひとつの腕輪だけで、音はたてられない。	コンゴ民主共和国の テテラの人々		✓	
---	---------------------	---------------------	--	---	--

腕輪は、女性が外出する際、大変に重要な身支度の一部です。腕輪は目立つように、よく輝き、ある程度の厚みがあることが求められます。しかし、目だけを楽しませるだけでは十分ではありません。耳の歓びも必要です。ですから、女性たちは、腕の動きに連れて腕輪どうしが触れ合っておりんちりと響きあうように、何本もの腕輪をつけるのです。

この輝きと音は、女性たちにとっては、いわば、他の女性と外見を競うための武器のひとつです。一方、男性のためは、以下のような、別の音と香りがあります。

女性たちは、ビーズなどの鎖を、衣服の下、腰のまわりにつけます。これは昔はフェル、現在はビンビンと呼ばれています。女性たちが歩くと、ビーズが触れ合って、ひそかな、しかし、特に男性にははっきりと聴こえる音をたてます。

そして、香りもまた、男女の関係の中で重要な役割を果たします。セネガルのウォロフの人々の社会では、香りはゴンゴとチューライのふたつに大別できます。どちらも木や草花など自然のものから作られますが、たくさんの種類があります。ゴンゴは、女性の腰巻の結び目に入れたり、小さな袋に入れて衣服の下に吊るして、ほのかに香らせます。チューライは、部屋を香らせるために使います。燻の上にひとつまみのチューライをのせると、やがて、うっとりするような香りが部屋中にたちこめます。

7	1本の薪では、煙はたっても火はおこせない。	エチオピアのガラの 人々		✓	
---	-----------------------	-----------------	--	---	--

これも、1から6までのものと同じです。

8	涙が出ると、鼻水も垂れる。	エチオピアのガラの 人々			✓
---	---------------	-----------------	--	--	---

家族やコミュニティなどの中での人間関係について扱っているアフリカのことわざの多くは、このことわざのように、体の中の異なる部分どうしの関係や、互いのつながりを使って語られます。

友だちや近しい人々は、私の不幸を、自分のそれと同様に悲しんでくれます。

9	上あごと下あごが出会えば、骨をも砕く。	ウガンダのルンヨロ の人々		✓	
---	---------------------	------------------	--	---	--

力を合わせれば、なんでもやりとげることができる、ということです。

10	ふたつの乳房だけで、この人を育て上げたのだ！ (訳者注：より意味がはっきりするよう、訳文を変えました。)	カメルーンのベチの 人々		✓	
----	---	-----------------	--	---	--

ひとりの人間を育てることは小さな仕事ではありません。しかし、ふたつの乳房が交代しながら辛抱強く働けば、この大事業を達成することができるのです。

11	動物は木にこすりつけて背中を搔くが、人は家族に「搔いて!」と頼む。	ナイジェリアのヨルバの人々		✓	✓
----	-----------------------------------	---------------	--	---	---

私たちには、他の人に頼んだり、互いにやり合わなければならないことがたくさんあります。このように痒いところを搔くこと、マッサージ、葉を塗る、髪を編んだり結ったりすることなどです。かつて、これらのことは、無償でおこなわれていました。しかし、今日では、アフリカに於いてでさえ、特に大都会では職業になりましたので、お金を払わなければなりません。ですから、ここは、昔のことを考えてチェックしました。

	集 計		4	10	2
--	-----	--	---	----	---

さて、ご覧のように、B欄「連帯」にチェックの入れたことわざの多くは、同時に、A欄「人間または動物の体が、それぞれの部分が補い合うことで、完璧なものになっていること」にもチェックを入れることになりました。

これは、私たちの社会も、体と同じように、社会を構成する一人一人が、互いに補い合うことで完璧なものになる、ということの意味しているように思います。

つまり、社会も、そこにいるすべての人々にそれぞれの役割があつて、「存在意義」または「存在する必要」があるのですが、かといって、ひとりでは不十分で、他の人々と連帯することで、はじめて完璧な社会となり、社会としての仕事も成し遂げることができる、ということになるのではないのでしょうか。

**バ オ バ ブ の 会**  
〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35  
TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>  
代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ  
**寄付振込先:**  
三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673  
ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215